



安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大ききや切迫の程度を示すために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

- 絵表示の例
- 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
 - 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

- 警告**
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電の恐れがあります
 - 交流 100V 以外では使用しないこと
発火・感電の原因になります
 - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
火災・感電の恐れがあります
 - アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電する恐れがあります
 - アースの取り付けは販売店にご相談ください
 - レンジフードと排気ダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
 - 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
 - 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
 - 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります
 - メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けると
漏電した場合、発火したり感電する恐れがあります
 - レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けると
漏電した場合、発火する恐れがあります
 - 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こす恐れがあります

- 注意**
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）
感電および故障の原因になります
 - 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けられないこと
火災・故障の原因になります
 - 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをする恐れがあります
 - 接触禁止
 - 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをする恐れがあります
 - レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをする恐れがあります
 - 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをする恐れがあります

取り付け上のお願ひ

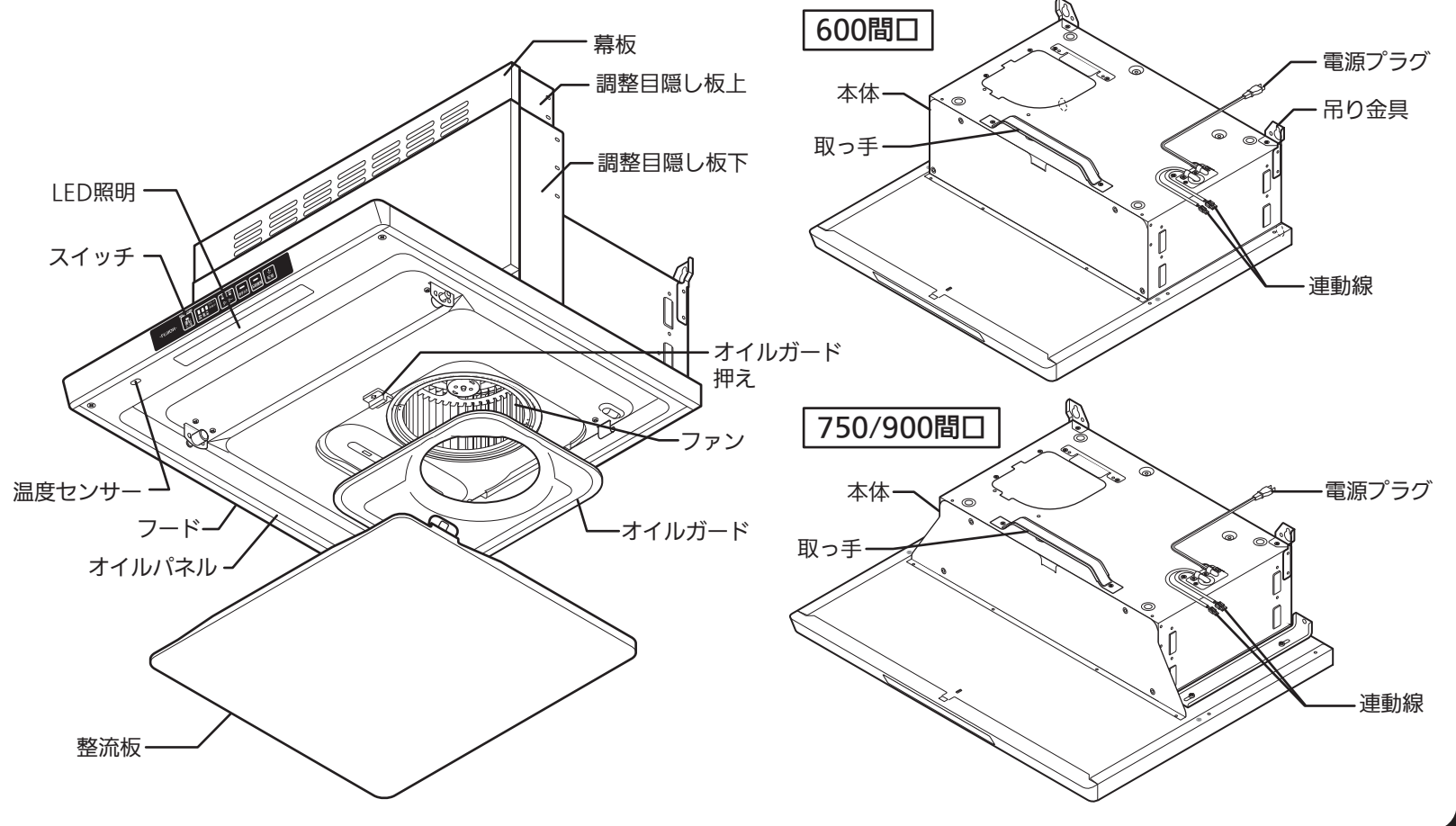
- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
 - ・大工工事【設置のための下地工事等】
 - ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等】
 - ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
- 流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
 - ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
 - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m³/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。
防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に曲出したダクトは排気効果をいじめるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフード取付面の補強部、取付用座付ねじが確実に届くことを確認してください。
本体の取付用ねじは 45mm の長さのものが同梱されており、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。
- レンジフードは調理機器の真上に取付けてください。
なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。
ただし、防火性能評定品または特定安全 IH 調理器適合品の調理機器の使用に限り、60cm 以上、80cm 未満で設置することが可能です。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。
また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。
湯沸器の真上は発熱するため故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で料理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm² 程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し体内内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- ダクトは必ず屋外側に向けて下り勾配を設けてください（目安：1/100～1/50 程度）。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。
- レンジフードの配線工事の際は、壁スイッチを使用しないでください。
レンジフードへの通電が遮断されず、お手入れ時（お手入れラン）を正しくお知らせできなくなります。
- 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。
塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。
- サーマ ON サポートを正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。

- 警告**
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電の恐れがあります
 - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火する恐れがあります
 - レンジフードと排気ダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
 - 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
 - レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けると
漏電した場合、発火する恐れがあります
 - 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
火災・故障の原因になります

取り付け前の調査と準備

- 注意**
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けられないこと
火災・故障の原因になります
 - 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをする恐れがあります
 - レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをする恐れがあります
- 1 取付面の強度確認
製品を支える強さが必要です。
- | | 製品単体質量 |
|-------|---------|
| 600 幅 | 18.0 kg |
| 750 幅 | 20.0 kg |
| 900 幅 | 22.0 kg |
- 板張りの場合
- 板厚が 20mm 以下の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
 - 板厚が 20mm 以上の場合には補強板の必要はありません。
 - 取付面の躯体（木材の柱または間柱）の位置を確認してください。
- 製品の荷重は必ず 450mm 以上の間隔のある躯体（木材の柱または間柱）に持たせようようにしてください。450mm より狭い間隔で取り付けると強度が不十分となり、異常な振動の発生や前ダレ等の変形の原因になります。
- コンクリート、タイル壁の場合
- あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。
- 土壁の場合
- 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。
- 2 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。
- 3 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで 80cm 以上です。
※火災予防対策では、グリッドフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。ただし、防火性能評定品または特定安全 IH 調理器適合品の調理機器の使用に限り、60cm 以上、80cm 未満で設置することが可能です。
- 4 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。
- お願ひ
必ずアース（D 種接地工事）をしてください。
レンジフードが誤作動することがあります。

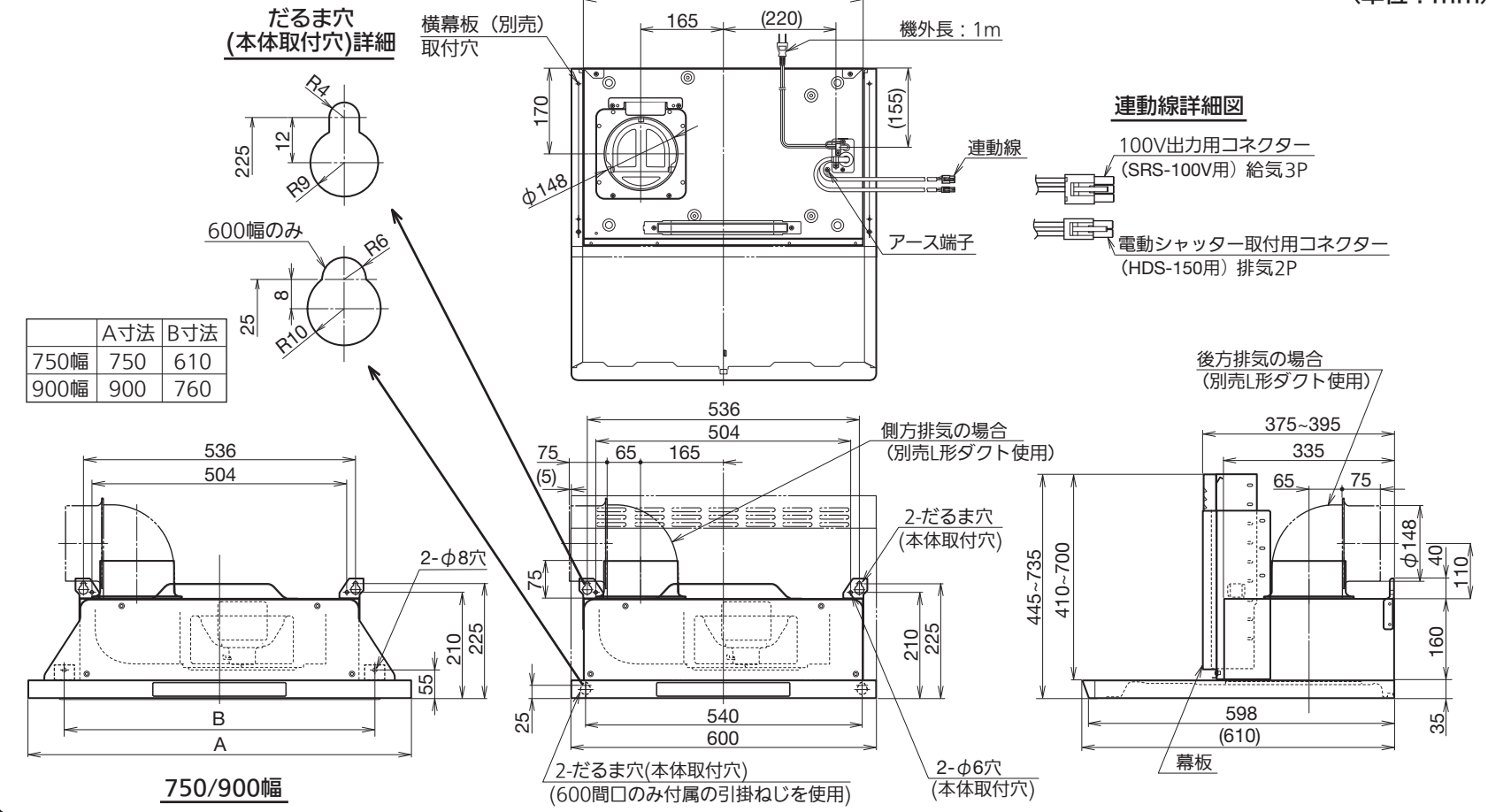
各部のなまえ



付属品

- 座付ねじ（φ 5.1 × 45）
4 本（600 幅の場合）
6 本（750/900 幅の場合）
本体の取り付けに使います。
- 引掛ねじ（φ 5 × 35）2 本（600 幅のみ）
本体の取り付けに使います。
- 排気口 1 個
本体とダクトの接続に使います。
逆風防止シャッター付きです。
- ソフトテープ 1 本
排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使います。
- アルミテープ 1 本
鋼板の固定に使います。
- 鋼板セット 1 組
本体正面の目隠しに使います。（セット内容）
 - ・鋼板……………1 枚
 - ・調整目隠し板上（左・右）…各 1 個
 - ・調整目隠し板下（左・右）…各 1 個
 - ・取付ねじ（M4 × 10）…2 本
 - ・木ねじ（φ 4.1 × 13）…6 本

製品寸法図



取り付けかた

1. 付属品の確認

注意

- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをする恐れがあります
- 付属品を確認します。
梱包箱から付属品を取り出し、上頂中央の付属品一覧により不足がないか確認します。
- お願ひ
- ・取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。
 - ・保護用のクッション材と固定テープが取り付けられている場合は、キズ・破損防止のため「6. 取扱説明書およびオイルガード固定テープの取りはずし」までそれらを取りはずさないでください。
 - ・床で作業する場合は、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。

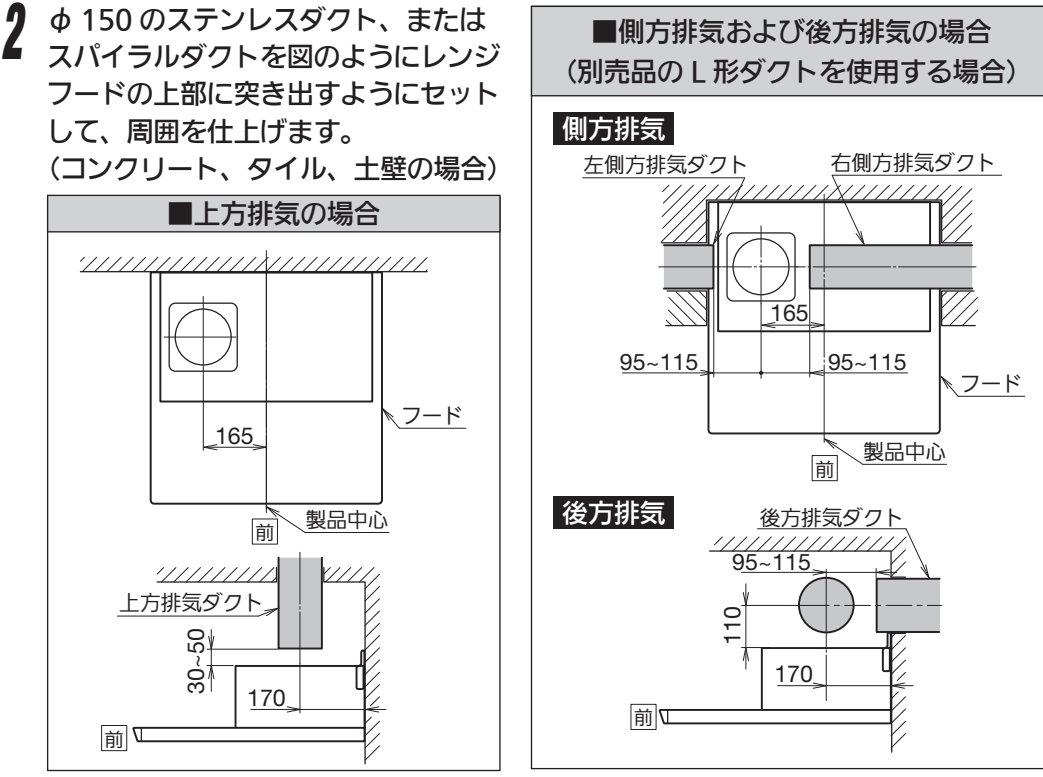
2. 排気方向の決定

警告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けると
漏電した場合、発火したり感電する恐れがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- レンジフードとダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）
感電および故障の原因になります
 - 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けられないこと
火災・故障の原因になります
- 1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開孔を依頼してください。（ダクトの漏風れ防止のテーピング作業ができるよう、壁穴は大きめに開けてください）
また、コンセントの位置を確認してください。
- 2 φ 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上ります。（コンクリート、タイル、土壁の場合）



3. 排気用部品の準備

※「1. 付属品の確認」の項で取り出した排気口を用意してください。

- 上方排気の場合（図 3-1）
排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。
本体についているねじ 2 本を取りはずした後、付属品の排気口を取り付けます。
取付方向は右図を参照してください。
 - 側方および後方排気の場合（図 3-2）（別売品の L 形ダクトを使用する場合）
排気口に付属品のソフトテープを貼り、L 形ダクトに取り付けます。
取付方向は、シャッターの開閉方向が下方になり、レンジフードを運転していないときはシャッターが閉じようように取り付けます。
排気口は、L 形ダクトに付属している取付ねじ（M4 × 8）4 本で L 形ダクトに取り付けてください。
本体への取り付けは、本体の取り付け後にこちらをおこないます。（15. ダクトと排気用部品の接続）参照
- お願ひ
L 形ダクトを使用しないで、排気口に直接ダクトを接続して側方・後方排気する場合は、シャッターの開く向きに注意して排気口を取り付けてください。
下図の「誤った接続例」の場合、排気不良や異常音の原因になります。
- 正しい接続例 誤った接続例

4. 本体の取り付け

注意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下により、けがをする恐れがあります
 - 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをする恐れがあります
- 壁板を固定している固定テープをはがします。

- 600 幅の場合
- 1 だるま穴用座付ねじ 2 本と引掛ねじ 2 本を壁面にねじ込みます。（図 4-1）
- 1) 別紙の原寸大型紙を参照し、上側のだるま穴位置（2ヶ所）に付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）2 本をねじ込み、壁面とのすきま 5mm まで締め付けます。
- 2) 下側のだるま穴位置（2ヶ所）に付属品の引掛ねじ（φ 5 × 35）2 本をねじ込み、しっかりと締め付けます。
- ※ 引掛ねじの頭が壁に食い込まない程度に締め付けてください。
引掛ねじの頭が壁に食い込んでしまうと本体が取り付けられない場合があります。

- 2 本体を引っ掛け固定します。（図 4-2）
取り付けた座付ねじ 2 本と引掛ねじ 2 本に本体のだるま穴を引っ掛けた後、上側の座付ねじ 2 本をしっかりと締め付けます。
※ 取っ手は、本体を引っ掛ける際の持ち手として使用できます。
- 図 4-2
- お願ひ
- ・上方排気の場合は、ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。
 - ・取り付け後、本体が確実に引っ掛けられたことを再度確認してください。

- 3 本体を固定します。（図 4-3）
本体両側にある 2ヶ所の穴に付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）2 本をしっかりと締め付けて固定します。
- 図 4-3

- 750 および 900 幅の場合
- 1 だるま穴用座付ねじ 2 本を壁面にねじ込みます。（図 4-4）
- 別紙の原寸大型紙を参照し、上側のだるま穴位置（2ヶ所）に付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）2 本をねじ込み、壁面とのすきま 5mm まで締め付けます。
- 図 4-4
- 2 本体を引っ掛け固定します。（図 4-5）
取り付けた座付ねじ 2 本に本体のだるま穴を引っ掛けた後、しっかりと締め付けます。
※ 取っ手は、本体を引っ掛ける際の持ち手として使用できます。
- お願ひ
- ・上方排気の場合は、ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。
 - ・取り付け後、本体が確実に引っ掛けられたことを再度確認してください。

- 図 4-5
- お願ひ
- ・この状態で座付ねじを締め付ける

- 3 本体を固定します。（図 4-6）
1) だるま穴横にある各穴に付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）各 1 本をしっかりと締め付けて固定します。
- 2) フード吊り金具の各穴に付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）各 1 本をしっかりと締め付けて固定します。
- 図 4-6

5. ダクトと排気用部品の接続

- お願ひ
ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたりないように図を参照してドリリングタッピンねじ使用範囲以内に固定してください。（図 5-1）
- 図 5-1

- 上方排気の場合
ダクトと排気口の接続部に漏風れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図 5-2）
- 図 5-2

- 側方排気および後方排気の場合（別売の L 形ダクトを使用する場合）
- 1 排気口を取り付けます。（図 5-3）
本体排気口取付位置に取り付いて取付ねじ 2 本をはずした後、L 形ダクトを本体上部の差込口に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、はずした取付ねじ 2 本で取り付けます。
- 図 5-3
- 2 漏風れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図 5-3）

- 排気口設置面の漏風れ確認のお願い（図 5-4）
排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面（製品天面等）が変形し、漏風れが発生してしまう場合があります。
漏風れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。
漏風れする場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風れ防止処置をおこなってください。
- 図 5-4

取り付けかたは裏面に続きます。

こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。
安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のごお願いは表面をご覧ください。

取り付けかた（つづき）

6. 取扱説明書およびオイルガード 固定テープの取りはずし

- 保護用クッション材をいったん取りはずし、整流板に貼り付けてある取扱説明書および固定テープをはずします。
- 付属の取扱説明書を参照して整流板を取りはずし、オイルガードを固定しているテープをはがします。
固定テープをはがした後は整流板をもとどりに取り付けてください。

7. 電気配線

警告



分解・修理・
改造禁止



使用禁止



取付注意



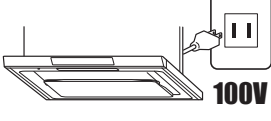
アースを取り付ける

- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

- 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります

- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って
法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります

- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください



分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い

- ・ 電源は専用のコンセント（2極差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを
設けてください。
- ・ 「9. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
- ・ コンセントは電源コードの長さを考慮し、設置してください。
- ・ 必ずアース（D 種接地工事）をしてください。
- ・ レンジフードの配線工事の際、壁スイッチを設置しないでください。

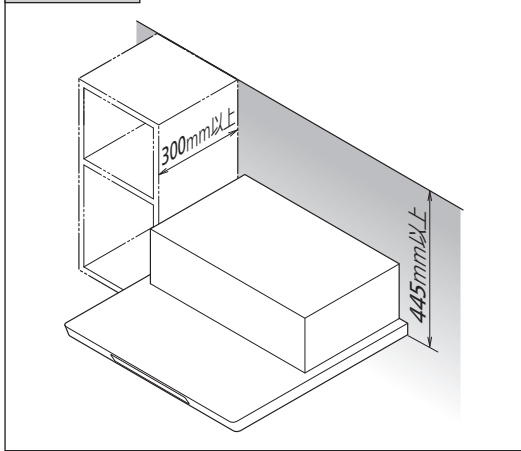
8. 幕板の取り付け

- 取り付け前の寸法確認（図8-1）

フード下面から天井までの高さが
445mm 以上、また壁からキャビネット
本体までの奥行きが 300mm 以上ある
か、それぞれ確認してください。

※ 奥行き 300mm 未満の場合は別
売の横幕板をご使用ください。

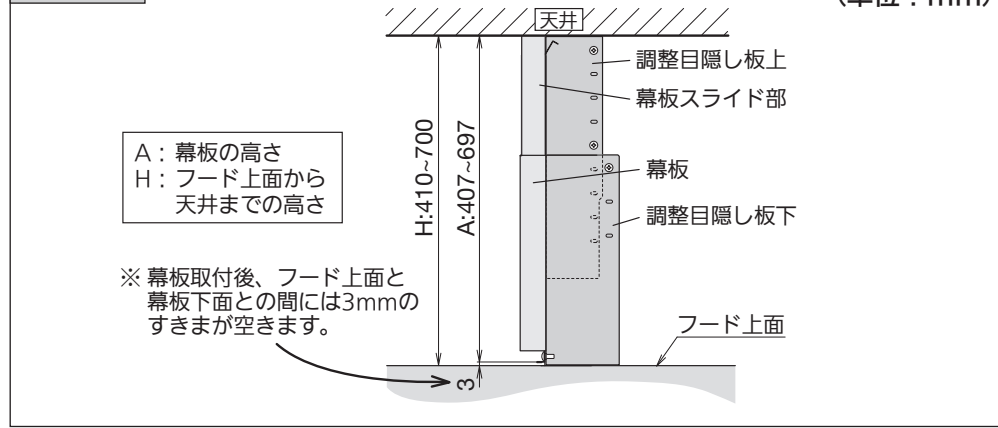
図8-1



- 幕板取付高さ範囲（図8-2）
次式により幕板の高さを算出し、幕板のスライド部を調節して高さを合わせます。

A（幕板の高さ）＝ H（フード上面から天井までの高さ）－ 3mm

図8-2



- 1 保護シートをはがします。

（図8-3）

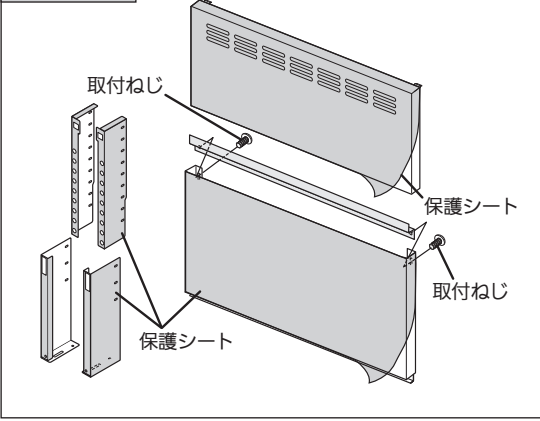
幕板および調整目隠し板上・下に保護シートがついている場合は、保護シートをはがします。

※ 幕板の保護シートをはがす際は、取付ねじをはずし、幕板を上下に分割してからはがしてください。

お願い

保護シートをはがした後はキズが付
きやすいので十分注意してくださ
い。

図8-3



- 2 スライド部を固定します。（図8-4）

※ あらかじめ「幕板取付高さ範囲」（図8-2）を参照して幕板の高さ調整をおこなってください（幕板をキズつけないよう十分ご注意ください）。

- 1) 補強金具を幕板裏面に差し入れ、幕板の高さ調整穴付近まで移動させます。

- 2) 補強金具を回転させ、幕板の調整穴と補強金具の穴位置を合わせ、取付ねじ（M4×10）2本で固定します。

- 3) 幕板スライド部の下端を付属品のアルミテープで幕板裏面から固定します。（図8-5）

図8-4

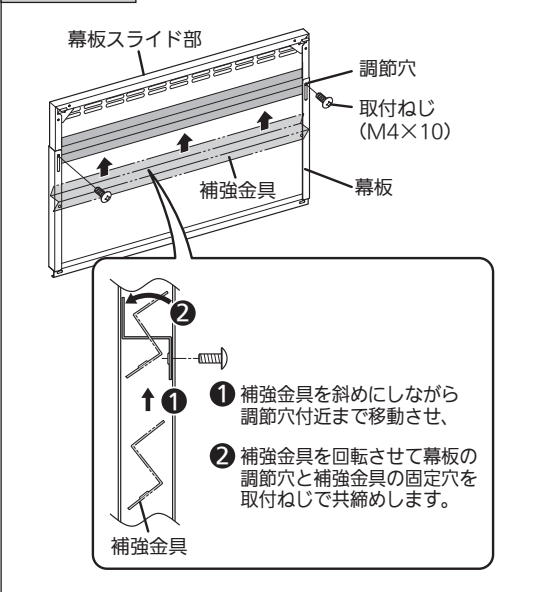
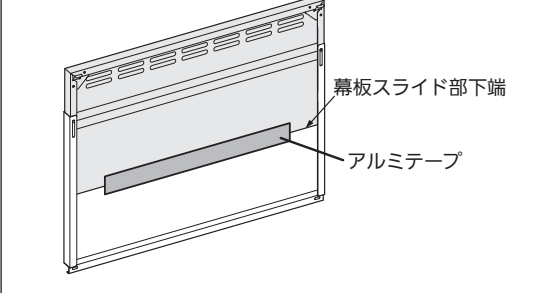


図8-5



- 3 調整目隠し板下（左・右）を取り付けます。（図8-6）

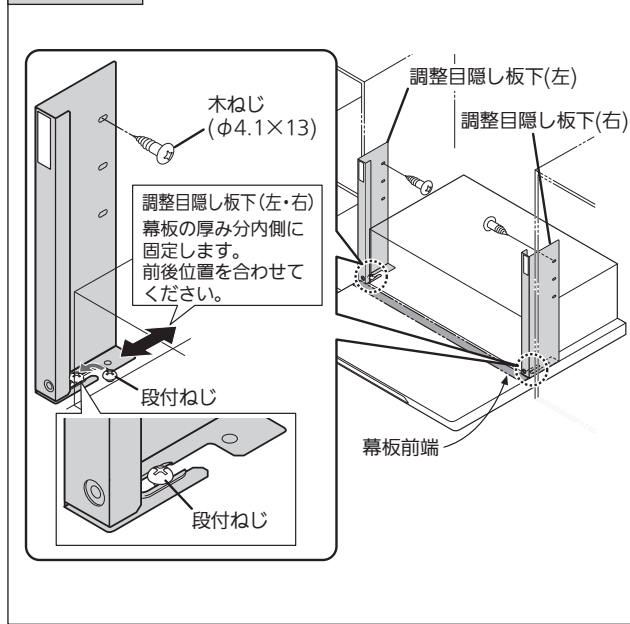
お願い

調整目隠し板上・下を取り付ける際は左右を間違えないようご注意ください。

- 1) フード左右の取付部にあらかじめ取り付けられている段付ねじに調整目隠し板下の下部にある切り欠きを差し込み、前後にスライドさせて位置を合わせます。

- 2) 調整目隠し板下とキャビネットを付属品の木ねじ（φ4.1×13）で固定します。

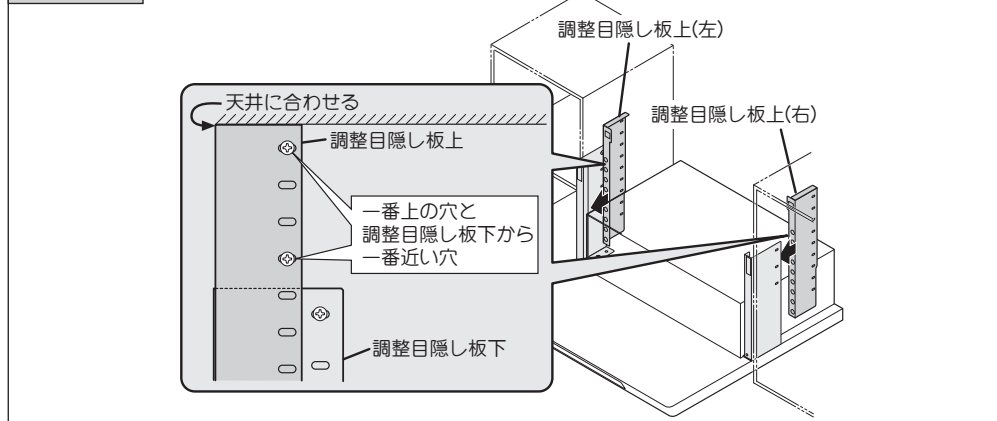
図8-6



- 4 調整目隠し板上（左・右）を取り付けます。（図8-7）
調整目隠し板上を調整目隠し板下に差し込み、天井に合うよう位置を調整して木ねじ2本で固定します。

※ 木ねじ2本は、うち1本を調整目隠し板上にある一番上の穴、もう1本を調整目隠し板下に最も近い穴に取り付けてください。

図8-7



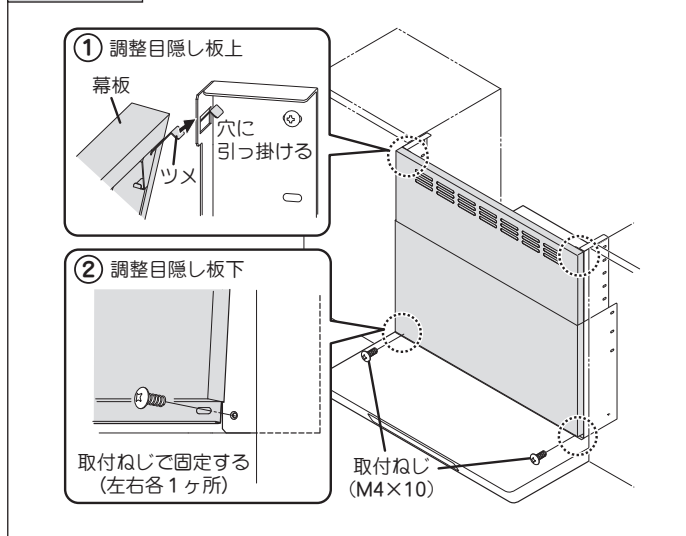
- 5 幕板を取り付けます。（図8-8）

（図8-8）

- 1) 幕板裏面上部にある左右のツメを調整目隠し板上の穴に引っ掛けます。

- 2) 幕板と調整目隠し板下のねじ穴を合わせ、付属品の取付ねじ（M4×10）2本で固定します。

図8-8



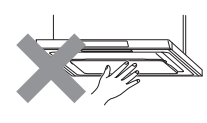
9. 試運転

注意



接触禁止

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります



- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 必ず最終設置した状態で試運転してください。
- 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
※ 整流板を取りはずしている場合、自動運転停止機能が作動し、ファンは回りません。必ず整流板を取り付けて確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。
- 製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープを元の状態に取り付けてください。
- サーマ ON サポートを正しくお使いいただくために、別紙に記載の方法で必ず環境設定をおこなってください。

10. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

〔販売元〕 **フジテックメンテナンス株式会社**

〒 252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1 番 9 号

お申し込み・お問い合わせ 0120-953-903（通話料無料）

F A X 042-768-3383

ホームページ <https://www.fujioh.shop>

受付時間 9:00 ～ 17:30（土、日、祝日、夏季休暇、年末年始を除く）

〔製造元〕 **—FUJIOH— 富士工業株式会社**

〒 252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1 番 9 号

お客様ご相談窓口 0120-071-686（通話料無料）

受付時間 9:00 ～ 17:30（土、日、祝日、夏季休暇、年末年始を除く）